

# 長期集団 宿泊活動の すすめ

学校を離れて行う「集団宿泊活動」は、通常の学校生活では行うことができない自然体験や交流体験など、様々な体験活動ができます。

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」では、「望ましい人間関係を築く態度の形成などの教育的な意義が一層深まるとともに、高い教育効果が期待されることなどから、学校の実態や児童の発達の段階を考慮しつつ、一定期間(例えば1週間(5日間)程度)にわたって行うことが望まれる。」と長期の集団宿泊活動の推進を提示しています。

## 「集団宿泊活動」で身に付ける 生活リズムやルール・マナー

### 「早寝早起き朝ごはん」による基本的な生活習慣

集団宿泊活動では、起床・就寝時刻が一定です。そして、朝・昼・晩と、三食しっかりと食事を摂ります。こうした規則正しい生活を送ることで生活リズムが身に付きます。

### 共同生活による社会性の育成

他人と一緒に生活することで、ルールやマナーといった社会性がはぐくまれます。

### 連帯感や仲間意識の向上

クラスの仲間と寝食を共にした生活を送ることにより、連帯感や仲間意識が高まります。

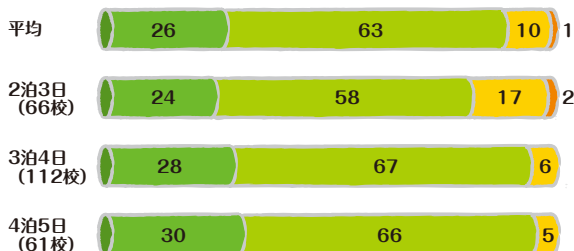
## 「長期集団宿泊活動」で、 より一層高まる教育効果

農山漁村での民泊を取り入れた長期宿泊体験・自然体験活動を実施した平成20年度の「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」178校を対象に調査したところ、「人間関係・コミュニケーション能力」、「自主性・自立心」、「マナー・モラル・心の成長」において効果を認めることができたという結果が出ています。

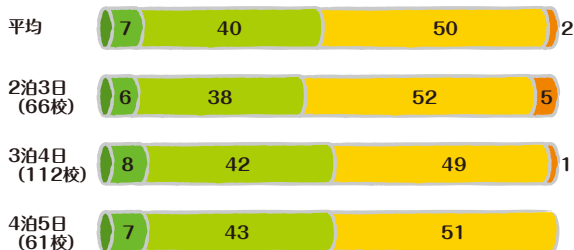
また、不登校等の問題行動にも効果が認められるなど、宿泊体験が多様な効果を期待できる取組であることが明らかになっています。

そして、2泊3日より、3泊4日以上長期の活動日数を確保することが望ましいと報告しています。

<児童が互いに励まし合うなど、連帯感や仲間意識が向上した。>



<いじめ問題や不登校問題の改善に効果が見られた。>



単位：%

「農山漁村での長期宿泊体験による教育効果について」  
平成21年度 文部科学省

### 「2009妙高フレンドスクール」(小学校長期集団宿泊活動の事例)

事業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>規則正しい生活を通して、望ましい生活リズムを確立する。</li> <li>生活体験や自然体験等の諸活動を通して、自他を大切にする心や社会性をはぐくむとともに、個人のコミュニケーション能力を育成する。</li> <li>自分自身の生活を振り返り、家族の一員としての自覚と自立心を養う。</li> <li>市内の全小学校6年生児童が共同生活を送ることで、中学校入学時の人間関係を円滑にする。</li> </ul>																			<場所> 国立妙高青少年自然の家
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22			
6月21日				開校式	妙高アドベンチャー	昼食	生活指導	交流活動	夕食	星空観察	生活の反省	入浴自由	就寝							
6月22日	起床	つどい朝食	グループ別火山学習					自主学習	夕食	スタンプの検討	反省会	入浴	就寝							
6月23日	起床	つどい朝食	夢見平探検隊			昼食	夢見平探検隊		自主学習	夕食	スタンプの検討	反省会	入浴	就寝						
6月24日	起床	つどい朝食	森の基地作り			昼食	森の基地作り		自主学習	夕食	スタンプの検討	反省会	入浴	就寝						
6月25日	起床	つどい朝食	びっくりランチ(野外炊飯)				基地解体	家族への手紙	自主学習	夕食	キャンプファイア	入浴	就寝							
6月26日	起床	つどい朝食	清掃	クラフト	交流	昼食	閉校式													

妙高市では、市内の全小学校が複数の学校と合同で6年生を対象に5泊6日の長期集団宿泊活動を実施しています。